

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



# 歴史の川・神崎川から大河・淀川の河口へ ～「出来のよい島」から漁港まで～

貞享元年(1684)の河村瑞賢による新川(のちに安治川と命名)開削を契機として、元禄元年(1688)以降は大坂湾岸に数多くの新田が生まれました。歴史ある神崎川と伝法川(中津川)に挟まれた出来島、中島、西島、百島など、新田開発とともに誕生したまちを訪ねます。

## 川口新田

元禄期(1688～1704)までに行われた検地で石高を付けられた耕地や屋敷を本田(ほんでん)と呼ぶのに対して、検地以後に新たに造成された耕地を新田(しんでん)と呼びました。新田は開発者によって領主開発新田、土豪開発新田、代官見立新田、村請新田、町人請負新田に分類されます。元禄以後、大坂湾岸に数多く誕生したのは、町人が開発を請け負った町人請負新田です。神崎川や伝法川、安治川、木津川などの川口に設けられたために総称して川口新田と呼ばれています。

## イ 福村

正保元年(1644)に大野村の樋口忠兵衛(大野村開発者・樋口伊兵衛の孫)によって新田開発されました。しかし水深が深いために埋め立ては困難を極め、福村は農村というよりは漁村として発展しました。明治末期には約200軒(村の戸数の約半分)が漁業を行い、ハマグリ、サルボ貝などの貝類の採取が有名で「貝の福」として名が通ったといわれています。またウナギも福の漁師が専門に獲っていました。大正末期から昭和初期にかけて漁業として最盛期を迎えましたが、新淀川開削の影響や付近が工場地帯化したため、激減していきました。

## ロ 大野村

正保元年(1644)に播磨の樋口伊兵衛によって開発。「大いなる野原」であったことから大野と名づけられました。海に面する土地で農作物はできにくく、漁業を年貢の足しにしていました。イナヤボラ、スズキなどを捕り、淀川でのシラウオ漁も有名でした。明治末期の時点で大野村の漁民は約80軒でしたが、大正末期には24軒に激減しました。福村同様、新淀川開削及び近隣の工場地帯化が影響しています。

## ホ 布屋新田

嘉永6年(1853)に中之島の布屋・高瀬基九郎が開拓したので布屋新田と命名されました。嘉永7年(1854)、ロシア艦隊司令長官兼遣日使節プチャーチンに乗せた軍艦ディアナ号が下田入港前に大坂に現れ、安治川に停泊しました。幕府は大坂防備のために布屋新田を含む各所に砲台建造を計画しましたが、布屋の砲台は明治に入ってから完成しました。ここに設置された大砲は戦場へ持ち出されて台場のみ残り、戦時には高射砲陣地が設けられました。

## ヘ 西島新田

元禄11年(1698)に幕府が新田開発を進めた際、九条村の池山新兵衛が請負った新田です。池山新兵衛は九条島、四貫島を開発し、九条村の庄屋を代々務めました。佃・大和田の西にあるため、西島新田と名付けられました。

## ハ 出来島新田

島下郡福井村(現・大阪府茨木市)の倉橋屋・彦坂四郎兵衛が、元禄元年(1688)に出来島や願念島と呼ばれていた地の新田開発を請け負いました。出来島と呼ばれたのは開発の出来が良かったからとも言われています。

## ニ 中島新田

元々は城島と呼ばれていた地ですが、元禄元年(1688)に京都の丁字屋(本屋)・中島市兵衛が新田開発を請負ったので中島新田と呼ばれました。現在も橋名には城島が使われていますが、地名は中島が使われています。中島新田は享保3年(1718)に和泉国・佐野の唐金屋新五衛門に譲渡されました。

## ト 西洲(とりす)新田

道修町の西村仁右衛門が明和2年(1765)西年に開発したので、西洲新田の名が付けられました。

## チ 矢倉新田

京都・下立売の鍵屋・矢倉九右衛門が、西島新田の中野清芳とともに安永5年(1776)に開発。度重なる高波の被害を受け、明治29年(1896)からの淀川改修工事ではほとんどが河川敷となりました。西端は矢倉緑地として生まれ変わっています。

## リ 百島新田

百島助太夫島・行徳島と呼ばれていた地を、元禄10年(1697)に大和田村の次郎右衛門が開発しました。大野村の南にあって、明治16年(1883)に大野村と合併した助太夫開(ひらき)は住吉社の神官・助太夫が開発したとされます。古来より佃、大和田、御幣島、野里など現在の西淀川区の大半は住吉社領でした。

## ヌ 西島新田

寛文12年(1672)に大坂・多羅尾七郎右衛門によって開発されましたが、新田が延宝6年(1678)完成の中島大水道の海に面する樋門を塞ぐために、いったん開発中止に。しかし安治川開削後に再び多羅尾氏に開発が委ねられました。新淀川開削により多くの田畑が奪われ、現在は川向こうの此花区に西島という地名が残っています。



## ① 五社神社

元禄元年(1688)に中島新田を開発する際、五社五柱の神を勧請しました。文化文政の頃(1804～1830)に神官・津田常則は「此の世に住める人の病む患しきくざ(腫物)は悉く救ひ治むべし」という神勅を受け、五社神社は疫病除去に効果があると評判が立ち、いつの日からか五社神社は「城島のくざ神様」と呼ばれるようになりました。

## ② 西島住吉神社

元禄11年(1698)に池山新兵衛が西島を開発した際、住吉四柱大神を守護神として勧請しました。明治42年(1909)に五社神社に合祀されましたが、昭和22年(1947)に遷宮しました。境内には享保16年(1731)尼崎屋九兵衛の記名がある灯籠が残ります。平成20年(2008)に大改修されました。

## ③ 彦坂四郎兵衛の墓

出来島開発の父・彦坂四郎兵衛は今も出来島の出来島墓場に眠っています。また、この墓地には織田信長に反旗を翻して討ち死にした荒木村重軍の霊を慰める無念地蔵もあります。

## ④ 判官松伝承地

元暦2年(1185)、源義経は平家追討のために大物(たいもつ)浦から讃岐国・屋島に向けて軍船を出しました。しかし、突風に航路を遮られ、船は大和田浦(現・西淀川区大和田)に漂着してしまいました。義経は大和田で住吉大明神に海上安全を祈願し、再度屋島に向かいました。九郎判官とも称された義経がこの地に松を植えたとも、松の木に腰掛けて休んだとも言われる縁から、この地にあった松は判官松と呼ばれて伝えられてきました。しかし、明治10年(1877)の落雷により焼失しました。

## ⑤ 大野住吉神社

正保元年(1644)に大野が開発された際に守護神として住吉四柱大神を勧請しました。福住吉神社と同じく、8月17日に豊漁祭が行われたそうです。

## ⑥ 福住吉神社

正保元年(1644)に福が開発され、漁業従事者が増えたことから、豊漁と航海安全を祈って明暦2年(1656)に神崎川の川床に宮地を築き、住吉四柱大神を勧請しました。かつては8月17日に豊漁を祈願する海神祭が行われていました。

## ⑦ 大野川緑陰道路

大野川は、神崎川と新淀川とを結ぶ延長約6km、幅員約30mの川で、明治末期から大正時代にかけて大野川沿岸に工場が立ち並び、河川汚濁して次第に河川機能を失いました。そのため公害対策や環境保全を目的に昭和30年頃から埋め立てられ、昭和47年(1972)に遊歩道と自転車専用道路が整備された緑陰道路の一部が完成、昭和54年(1979)に全線が完成しました。

## ⑧ 舟溜まり

淀川対岸の伝法とともに、大阪市内に残る数少ない漁港の一つです。漁船の往来が激しかった頃を想像しながら眺めると、感慨深いものがあります。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。  
【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または **大阪あそ歩** でネット検索を。